

※ 令和3年度 努力目標と反省点・改善点 ※

大項目	小項目	重点目標	反省点	改善点
学校経営	・魅力ある学校づくり	・基礎学力の充実 ・解りやすい授業の研究・実践 ・ICTを活用した教育の研究・実践 ・進路指導の徹底 ・クラブ活動の奨励 ・国際交流の奨励	・朝の自学自習への取組みに改善が見られた ・支援を要する生徒に対して合理的配慮に基づいた評価が定着してきた ・ICT機器を利用した授業に積極的に取組む教員が増えた。ただ、学習課題に対する生徒の興味関心を高めることについてはある程度の成果が見られたものの、それが基礎学力の定着にまでは結びついていない ・コロナ禍において就職・進学ともに良い実績を残すことができた ・コロナ禍にあって、部活動も大きな制約を受けたが、そうした中にも素晴らしい成績を残すことができた反面、いくつかの部活動においてクラスターが発生してしまった ・コロナ禍にあって、訪問交流はできなかったが、オンラインにより大韓民国・朝日高等学校との交流を行うことができた	・今後とも朝の自学自習の取組みを継続していくのみならず、クラスによる温度差を無くすように努めていきたい ・生徒のプライバシーに十分配慮しつつ、支援を要する生徒に対する情報共有と共通理解の徹底をさらに促進していく ・ICT機器を使用した授業について、さらに教材研究を深め、学習内容の理解に資する事ができるように努めていく ・多くの職業科を有する県内唯一の私立学校として、企業に対しての更なる求人・広報活動を充実させていきたい ・校内における新型コロナウイルス感染症についての保護者への情報提供、生徒への感染予防の呼びかけを学校を上げて取り組んでいく ・コロナ禍にあって実施可能な国際交流の取組みについて模索していくとともに、オンライン交流などを積極的に実施していく
	・健全な心身の育成	・自主独立の精神 ・人間尊重の精神 ・誠実勤勉な態度	・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止について、文部科学省、熊本県から示されたガイドラインに基づき、保健所からの指導・援助を得ながら感染予防対策を行うことができた ・新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの学校行事や部活動等の公式大会が中止・規模縮小せざるを得なかった結果、生徒の学校生活が味気ないものになってしまった	・今後とも、行政から示されるガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症の感染状況等の情報収集と、保護者・生徒への情報提供を行いつつ、感染防止に学校を上げて取り組んでいく ・新型コロナウイルス感染症の感染予防に十分配慮しながら、なるべく学校行事を実施していく方向で創意工夫をさらに凝らし、生徒にとって楽しい学校生活と思いを提供できるように努めていく
	・保護者との連携	・生徒指導の連絡、情報の連携 ・家庭訪問の徹底（不登校生・退学者の撲滅）	・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、保護者会を開催することができなかった ・学校ホームページを活用し、生徒の学校における生活の様子や新型コロナウイルス感染症の感染状況を保護者に公開することができた	・学校ホームページや学校安心メールなどを活用し、生徒の学校生活の様子や新型コロナウイルス感染症についての情報提供に努める ・ICT機器等を利用して、新型コロナウイルス感染症の感染予防に十分配慮した新しい形の保護者会の研究を行っていく
	・地域連携	・地域社会への貢献 ・積極的な学校周辺の美化活動	・新型コロナウイルス感染症の影響により、従来行ってきた地域でのボランティア活動や清掃作業が殆どできなかった	・コロナ禍にあって実施可能な活動を模索していく
学力向上	・指導力の向上	・教員が自らの資質向上を図り、わかりやすい授業づくりを行うための教材研究や自己研鑽に努める。 ・個々の生徒に応じた学習指導を心掛ける。	・分散登校などで限られた授業時間を工夫するため、板書をプリント学習にするなど工夫できた。 ・低学力の生徒対応に追われ、能力のある生徒の更なる学力向上に力を注げなかった。	・ICTを活用した授業展開を行い、解りやすい授業を心がけた。 ・能力のある生徒には、放課後に個別指導をするなどの工夫が必要である。
	・基礎学力の定着	・朝学習や宿題などを活用し、基礎学力の定着を図るように日々指導する。 ・家庭学習の習慣を身につけるように促す。 ・必要に応じて個別の学習指導や添削を行う。	・朝学習にはやはりクラス毎の温度差はあったが、3回の確認テストも行うことができた。 ・朝学習テキストの確認を数回行い、全員が計画通り学習できた。 ・英語科が実施している共通の単語テストはとても良いので各学科でも工夫した取り組みが必要である。	・家庭学習にもChromebookを活用し、学習習慣を身につけさせたい。 ・各科ごとに家庭学習への取り組みを創意工夫して行くべきだ。 ・朝学習実施期間外でも個別に基礎学習（漢字・英単語・計算）に取り組んでいます。毎日の積み重ねが大切だと思います。
生徒指導	・基本的な生活習慣の確立	・心を込めて挨拶のできる生徒を育成する。教師から先ず挨拶を行う ・校内外のルールを守り、服装・頭髪に気を配り、自分らしさを表現できる生徒の育成	挨拶に関しましては外部からの高い評価をいただいておりますが、部活生以外の生徒の挨拶が今一つの所がありますので、生徒に促していきたいと思っております。また、服装・頭髪に関しましては、特に女子スカートが目につきますので、継続して生徒部が中心に指導を行い、全先生方で取り組みができればと思います。	教職員が生徒とのコミュニケーションをしっかりとるためにも、率先して挨拶を行うことが重要かと思っております。生徒との信頼関係にも繋がっていくと感じています。
	・命を尊び、心身共に健康な人材の育成	・交通ルールの遵守、交通モラルの確立を図る ・他者を理解し思いやるとともに、自分を高め充実した校内生活を送らせる ・生徒指導について、生徒の人権に配慮し、生徒の内面と向かい合いながら自分を見つめなおす機会を持たせる ・自己管理能力の育成（情報モラルの高揚、貴重品等の管理）	登下校中の事故が数件ありましたが、大きな事故はありませんでしたので良かったと思っております。貴重品等の管理も、集会時に話をしていますので、今年度は盗難等は少なかったように思います。	年間を通じての生徒への注意喚起が大事かと思われます。今年度はしっかりとできていたと思います。
	・自主的に行動できる意欲ある生徒の育成	・朝の清掃活動及び校内の美化に積極的に取り組み、施設・設備を大切に扱う心を育てる ・地域の清掃活動等を通して奉仕の心を育てる	部活動生を中心に取り組みができています。また、特別指導中の生徒なども放課後清掃活動を行うことにより指導後の学校生活につながっているようです。	昨年同様に取り組んでいきたいと思っております。
進路指導	・進路に関する意識の向上	LHRや総合的な学習の時間の活用だけでなく日々の授業においても進路意識を高める	学年団と連携した取り組みが、さらに必要であると思う	クラス単位での統一した指導も充実していく
	・進路情報の提供	学年団と進路指導部の連携により生徒情報を共有し、就職・進学委員の活用により進路に関する情報をクラスに伝達する	生徒にはできたと思うが保護者に伝わっていない部分があったようである	保護者に向けた情報提供をより強化する
	・進路相談の充実と環境整備	進路指導室の機能と指導環境の整備を図り、生徒・保護者・教職員の相談に対応できる態勢を整える	相談に来た生徒・保護者への対応はできていたと思う	保護者も含め、対応力をさらに強化する
特別活動	・学校行事の充実	・時代に即した形式で、生徒の良き思い出となるような行事を1つでも多く実施する	多くの制限の中、コロナ禍の閉鎖的な環境で成功で終えることができた。半日開催ではあったものの、生徒の反応も非常に良かった。その他の行事も概ね成功だったが、修学旅行や阿蘇登山競走大会が中止となったのは心苦しかった。	開新競技大会では、こちらの思うような結果にならなかった競技もあり、見直しが必要と感じた。また、会場利用に関する注意(特にコースの逆走)も事前に徹底すべきだった。
	・クラブ活動の充実	・感染予防に努めつつ、与えられた環境で活動を行う ・クラブ活動の推進を図る ・クラブ活動と学業の両立を図る	各クラブともガイドラインに則り予防に努めたが、予想以上の広がりを見せたため、結果としてクラスター発生や活動中止を招いてしまった。そのような中でも多くのクラブが好成績を残してくれた。	予防に対する意識に個人差があるように思われる。クラブ単位ではなく、学校全体で意識の統一を図る必要がある。
	・生徒会活動の充実	・校内活動(ボランティア等)を充実させる ・各委員会の活性化を図る	職員対象の赤い羽根募金や、エコキャップ運動を行った。校外ボランティアは今年度も軒並み中止だった。委員会活動は例年どおりであった。	校内でできる新たなボランティア活動を考える必要がある。
安全健康管理	・健康教育の推進	・心身のバランスをとり、健康で衛生的な生活習慣の推進を図る	掲示物を通して生徒への情報発信が少なかった。さらに心身の健康のバランスや生活習慣の改善についての啓蒙が必要だと感じている	生徒とのコミュニケーションを通して実態把握に努め、心身の健康への関心を高めるよう掲示板を利用して工夫する
	・教育環境の整備	・学校内外の環境美化の推進と安全な教育環境整備に努め、事故・けがを防止する	各教室に手指消毒用のアルコール、職員全員の出勤時の体温測定機器の導入、入学試験などの際の教室のアルコール消毒など、新型コロナウイルス感染症の予防対策を行うことができた。	さらに安全・美化の推進に努める
	・教育相談	・面談を通して、生徒の実態把握に取り組み、担任や養護教諭と連携を図る ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、生徒や保護者の悩みや相談に適切に対応する	生徒についての実態把握・共通理解に関しては、担任や保護者、その他と連携を図り、適切な対応ができた。また、寮生のカウンセリングを通して、新たな実態把握に取り組みすることもできた	カウンセリング利用に関して、さらに保護者への周知を図り、必要とする生徒や保護者が受けやすい体制をつくるように努める